

1 国語 ー第2学年の実践ー

1 単元 絵本のプレゼントにそえるメッセージカードを書こう「スイミー」(光村図書2年上)

2 単元について

- (1) 本単元では、「スイミー」を学習材として取り上げる。場面の様子に着目しながら登場人物の行動を具体的に想像し、感想を伝える言葉を使って思ったことを表す力の育成をねらう。

本学習材は、中心人物スイミーが、大きな魚に襲われて兄弟を失い、一人ぼっちになるものの、素晴らしい海の生き物との出会いで元気を取り戻し、新しい仲間と共に協力して大きな魚を追い出していくという物語である。中心人物スイミーの言葉や行動からは、困難を乗り越える知恵と勇気、新たな出会いの素晴らしさ、仲間と協力することの大切さなどを感じることができる。そうした中心人物の言動を具体的に想像するとともに、作品に対する思いを一人一人の子どもがもち、自分なりの言葉で表現できるようにしていきたい。

- (2) 「ふきのとう」を学習材として取り上げた前単元では、言動についての叙述に着目し、登場人物が何をどのようにしたのかを具体的に想像する学習に取り組んだ。本単元では、登場人物の言動に着目して「誰が、どうして、どうなったか」を捉えるとともに、作品に対する感想をもつ学習を展開する。それらの学習が「わたしはおねえさん」を学習材とする次単元において、登場人物の言動に着目し、自分と比べて感想をもつ学習へとつながっていく。

- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数36人)

- ① 全員が、これまでに読んだ本の中からおもしろいと思った本を選ぶことができる。また、「おもしろいところ」や「心に残ったこと」を書くという課題においても、どこがおもしろかったかについて全員が書くことができる。
- ② 物語について、自ら複数の場面の言動を比べて感想をもち、自分なりの感想語彙を駆使して自分の思ったことを表現できる子どもはまだ少ない。

- (4) 指導にあたっての留意点は、次の通りである。

- ① 第一次では絵本「フレデリック」の読み聞かせをした後、「2年3組のみんなへ」というメッセージカードを贈る形のモデル文を提示する。そのモデル文を基に「スイミーの言動について思ったこととそのわけを、他の言動と比べて、絵本のプレゼントに添えるメッセージカードを書く。」という単元の学習課題を設定し、学習の見通しをもてるようにする。
- ② 第二次では、単元の学習課題をもとに問いを立てさせ、一人一人がその問いの解決に向けて言語活動に取り組んでいけるようにする。初めからメッセージを書いていくことが難しい子どもには、下書きの欄外に手引きをつけたり、図化したりしたワークシートを用意しておき、自分で必要に応じて使えるようにしておく。
- ③ 特に本時の学習については、次の点に留意する。
 - ・導入においては、前時の振り返りで自分の感想と結末とのつながりで悩んでいた子どもを取り上げ、その悩みをもとに結末とのつながりに焦点化した課題を設定する。
 - ・全体で意見を出し合わせながら、どの場面とつなげて考えているかを拡大教材文で確かめていくことで、複数の場面をつなげてスイミーの言動の意味を捉え直す考え方を共有できるようにする。

3 単元の目標

- (1) 感想を表す語句の量を増やし、感想を伝える文章の中で使うことができる。
- (2) 登場人物の言動を手がかりとして主な出来事や結末などを読み取り、「誰が、どうして、どうなったか」を捉えることができる。
- (3) 進んで場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉え、学習の見通しをもって「スイミー」や他のレオ＝レオニ作品について感想をまとめようとしている。

4 指導計画（10時間取り扱い）

- (1) 単元の見通しをもち、問いを立てる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 時間
- (2) 問いの解決に取り組み、メッセージカードを書く。・・・・・・・・・・ 5 時間（本時 5 / 5）
- (3) 書いたメッセージカードを読み合い、単元の学習を振り返る。・・・・・・・・ 3 時間

5 本時の学習

- ### (1) 目標

感想と「誰が、どうして、どうなったか」のつながりを検討することを通して、場面と場面をつなげてスイミーの言動の意味を捉え直し、自分のメッセージを見直すことができる。

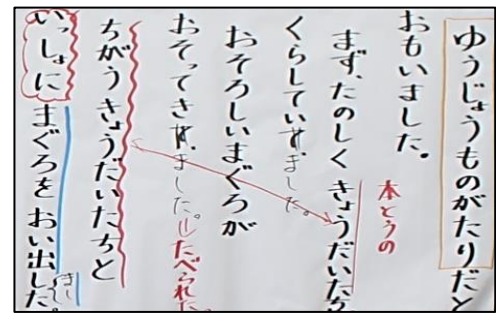
- (2) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考
1 前時の振り返りをもとに、本時の課題を設定する。	5	○ この作品を「ゆうじょうものがたりだ」と捉えているものの、その感想と結末とのつながりで悩んでいる子どもを取り上げ、次の課題を設定する。	拡大教材文 付箋紙全文プリント
大きな魚をおい出したことと、「ゆうじょうものがたり」はつながるのだろうか。			
2 「ゆうじょうものがたり」につながる「誰が、どうして、どうなったか」について話し合う。	20	○ 結末のみでは「友情物語」と読むことはできない。そこで「大きな魚をおい出した」こととどの場面をつなげると「友情」を読み取ることができるかに焦点化することで、場面と場面とをつなげて結末の意味を捉え直す考えを引き出していく。 ○ 発言に対して「文章のどこからそれが言えるか」を問い返し、拡大教材文で根拠となる叙述を確かめさせることで、場面と場面をつなげる考え方を視覚的に捉えられるようにする。	
3 自分の感想と「誰が、どうして、どうなったか」のつながりを考え、メッセージを見直す。	15	○ 自分の感想を表す言葉を付箋紙に書き出させ、どの場面からその感想をもったかを全文プリント上で付箋紙を動かしながら考えるように促すことで、自分の感想の言葉と叙述とを関連付けて、スイミーの会話や行動の意味を捉え直すことができるようにする。	
		【評価】 場面と場面をつなげてスイミーの言動の意味を捉え直し、自分のメッセージを見直すことができる。(ワークシート)	
4 本時の学習を振り返る。	5	○ 本時の学習で解決できたこと、解決できなかったことをペアと話させた上で、振り返りを記述させる。	

6 指導の実際

(1) 前時の振り返りをもとに、本時の課題を設定する。

※ 前時までで、子どもたちは物語を読んで思ったことをもつことはできているものの、自分の感想と「誰が、どうして、どうなったか」がつながっているかに悩みをもつ子どもや、感想とその理由につながらない子どもが見られます。そこで、感想と理由のつながりについて困り感を持ち、みんなに相談したいという思いをもっていた子どもの振り返りを取り上げ、本時の課題を設定します。



ゆうまくんのメッセージを拡大して提示

C 誰が、どうして、どうなったかは書けたけど、「まぐろをおい出した」が「ゆうじょうものがたり」とつながっているかが分からない。

発問

大きな魚をおい出したことと「ゆうじょうものがたり」はつながるでしょうか。

(2) 「ゆうじょうものがたり」につながる「誰が、どうして、どうなったか」について話し合う。

C 楽しく暮らしていたんだよね。兄弟たちが。そしておそろしいまぐろがおそって来たんでしょ。そこで、違う兄弟たちと一緒におい出したから、その兄弟たちとスイミーの「ゆうじょうものがたり」なんじゃない。

C まぐろをおい出したところじゃなくって、違う兄弟たちと一緒にになったところが「ゆうじょう」だと思うよ。

C 違う兄弟たちと一緒に、本当の兄弟たちじゃない兄弟たちとおい出したから「ゆうじょうものがたり」。“一緒に” おい出したから「ゆうじょうものがたり」だと思う。

※ 3人が発言をつないでいく中で、子どもたちは「まぐろをおい出した」という結末のみではなく、「違う兄弟たちと一緒に」おい出したことに意味を見いだしていきます。ここで、その根拠について問い返し、全員が叙述に立ち返って考えることができるようにします。

発問

文章のどこからそれが分かりますか。

C 27～30（行目）なんだけど、「そうだ…海で一番大きな魚のふりをして」って書いてあるよね。スイミーは教えたんでしょ。けっしてはなればなれにならないことを。だから、みんな一緒に心をつないで力を合わせて、兄弟ではないけど大きな魚をおい出したから、みんなで力を合わせた「ゆうじょうものがたり」だと思う。



根拠を示して発言する

C 兄弟たちが食べられたでしょ。違う兄弟たちに会ったでしょ。そして、仕返しをやりたいでしょ。違う兄弟たちが食べられたら、仕返しができないから、持ち場を守らないとできない。持ち場を忘れたら、離れ離れになってしまって、また最初のばらばら、食べられてしまう。また苦勞する。

※ スイミーの行動の意味を「心をつないで」などのように捉え直した発言がありますが、一方で「仕返しをやりたい」「また苦勞する」などスイミーが自分のためにやっているという考えも混在しています。このような場合には、事前の机間指導の見取りをもとに、別の場面とつなげ、「仕返し」とは異なる考えをもつ子どもに発言を促します。

C また食べられる、また苦勞するって〇〇くん言ったよね。でも、ここに「いろいろ考えた。うんと考えた」ってあるでしょ。見つけた魚たちも仲間だよね。スイミーはこっちで（2の

場面で) 悲しい思いをしているでしょ。だから、こっちの仲間たちにそういう思いをさせたくないって思ったんじゃないかな。

C 自分たちのことだけでなく、仲間たちのことも考えている。

C スイミーは、見つけた仲間たちと一緒に遊びたいけど、その赤い魚たちは大きな魚たちに食べられたくないよね。だから、その赤い魚たちのためにいろいろ考えて、うんと考えて、さっきの△△ちゃんと似ていて、自分のことだけでなく、赤い魚たちのことも考えなくちゃって思いやりをもっている。

※ 異なる場面の言動をつなげ、「自分のためか、仲間のためか」という視点からスイミーの言動の意味を捉え直す発言が出ています。ただし、ここで大切なのは読み取った内容ではなく、「異なる場面の言動をつなげる」という「解決策」を共有することです。そのためには、その解決策を自分の言語活動を見直すことに活用することが欠かせません。そこで、次のように発問をします。

発問

自分の感想は、どの場面のどの会話や行動とつなげると伝わるでしょうか。

C 私は、「勇気が出るお話」と思ったんだけど、2の場面で怖がったり寂しがったりしていたスイミーが、新しい仲間「出てこいよ。」と呼びかけたり、「ぼくが目になろう。」と言って自分も大きな魚と戦おうとしたところがつながると思うな。

C 僕はスイミーの「あきらめない心」がすごいと思ったんだけど、まだどうしてそう思ったかは書けていないな。

(3) 自分の感想と「誰が、どうして、どうなったか」のつながりを考え、メッセージを見直す。

指示

メッセージに書いている「感想の言葉」とつながる会話や行動を見つけて、線を引きましょう。そして、その会話や行動がメッセージの文に入っているか見直しましょう。

※ 個人での活動の際、教師は活動が滞っている子どもの支援に気を取られがちです。もちろんそれも大切な教師の仕事ですが、子ども自身が見通しをもって活動できるようにすること、子ども同士がかかわり合って課題解決に取り組んでいけるようにすることが重要です。

そこで、自分の感想につながる言動を新たに見つけて線を引いている子どもや、線を引いた叙述をメッセージの中に入れようと記述内容を見直している子どもを取り上げて価値づけることで、周りの子どもたちもどのように考えればよいか見通しをもてるようにします。また、活動が滞っている子どもに対しては、ペアの友達に相談するように促したり、似た困り感をもつ子ども同士をつなげて、一緒に考えさせたりするのもよいでしょう。



全文プリントを介して話し合う

(4) 本時の学習を振り返る。

指示

今日の学習で解決できたこと、できなかったことを、ノートに書きましょう。

C 今日は、□□くんの考えを聞いて、新しい問いが生まれました。△△ちゃんが言った考えが、ぼくもいいなあと思いました。だけどやっぱり迷っています。

※ 本時の振り返りには、解決できたことだけでなく、できなかったことも書くように促します。そうすることで、次時への見通しを子ども自身がもてるようにします。(溝上 剛道)